



現地での経験、留学によって得たもの 皆さんへのメッセージ

留学した学校内の学生たちは、もちろん人によりけりですが、飽きないのかというくらいパーティーをやっており、テンションの高さにはアジア人一同ついていけませんでしたがその一方で、授業のグループワークの内容が、数人が空き教室に集まって、ああでもないこうでもない議論している姿をたびたび見かけ、授業への真剣さがうかがえました。学校での授業はマーケティング、市場調査論、国際経営論などを履修しました。プランニングの授業では授業初回から数人のグループに分かれ、最終授業まで自分たちが考案したビジネス、イベントを作り上げ、プレゼンします。国によって意見も違うので、毎回白熱した時間を過ごしていました。これらの授業での課題は毎日のように出ることはもちろん、全授業にもれなくプレゼンテーションがありました。その準備と毎授業の予習復習で、何回キャパオーバーを感じたかわかりません。またレンヌをめぐってこの学校では「Junior Enterprise」という団体があります。クラブというよりは学校から資金をもらって、実在する企業と打ち合わせ、提案、予算見積もりなどの仕事をするので、ある種学生が主体となった小企業です。音楽、映画、服飾など、彼ら自身が企画・運営をしていくハイレベルな団体があります。前述のとおり最初は彼らのテンションの高さには圧倒されましたが、次第に慣れ、ご飯に招かれたこともありました。特にアジア勢とは仲がよく、彼らとは自宅で2回ほどパーティーを開き、親睦を深めました。また私は、フランス人と日本人がエクスチェンジする団体によく顔を出していたので、そこで日本に興味のある多くのフランス人と友達になれました。語学はノートに向かって単語を書いているより、ネイティブと話して、たくさん間違えて、たくさん使わないと身に付きません。内向きにならず、積極的に会話に参加してってください。留学の機会があるのなら是非いくことをおすすめします。もちろん楽しいことばかりではないですが、週2でコンサートに出かけたり、公園やカフェ、街を隅々まで散策したり、バカンスでは格安でチケットをとってヨーロッパを周遊したり…勉強もそうですが、そこで得る経験は計り知れません。海外を見た人間とそうでない人間とは思考力も行動力も何もかも格段に違います。人間として大きく成長できるチャンスを、いまのうちにつかんでほしいと思います。

Salut d'Amour

Liebesgruss
for Violin and Piano, Op. 12

E. Elgar



Takuya Watanabe





Naoya Takagi

S' amuser de la difference

私が初めてフランスに行ったのは2009年です。大学の教授に紹介してもらって、エマユス・という団体にボランティアとして、家具のリサイクルを手伝いながら、キャンピングカーで2か月ほど生活しました。初めての海外で知り合いもおらず、また言葉もろくに話せず、さらにベルギーの近くの田舎だったため日本人もいませんでした。しかし、そこで会った人たちはとても親切で、帰国する時にはもっとここにいたい！と思うほどでした。

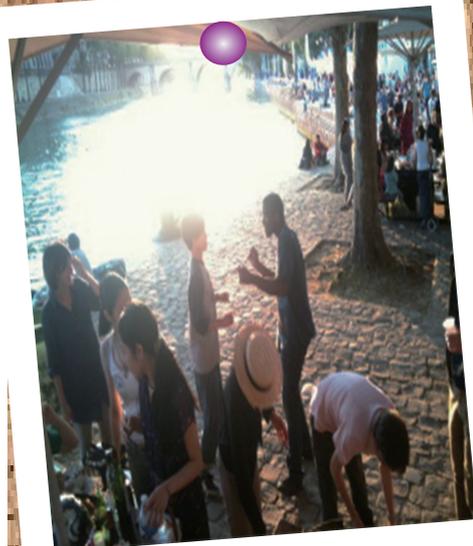
その後、ワーキングホリデービザを取得し、再度フランスへ。パリでアルバイトをしながら1年を過ごしました。たくさんの人と出会い、フランスの文化に浸り、ヨーロッパのいろいろな国を旅行することもできました。今までの僕の人生の中で最も濃い1年間だったのかもしれませんが。外国で生活すると、言葉の違い、文化の違い、考え方の違い、その国の良い所悪い所が見えてくると思います。海外では、ぜひ、その『違い』を楽しんでください。その違いを楽しめない外国での生活は楽しくありません。あなたお知らない世界を見に行きましょう。



la tour Eiffel



2010卒 パリ INSEEC 大学院
在学中



(..)φ





私は、大学卒業後に留学し、フランスに2年半ほど滞在しました。

大学院では、授業中に学生からとにかく矢継ぎ早に質問や意見が飛んでくることに最初は戸惑いました。ひたすら講義を聴くという授業はほとんどなく、学生と教授との双方向のやりとりで授業が成立していました。また、グループワークでは意見を一つにまとめてそこから話をすすめるというより、一つの意見について全員が納得するまでそれぞれが意見をぶつかり合わせるという感じで最初のグループの方向性を決めるのに時間をかけていました。

卒業要件として3カ月のインターンシップが必須だったのですが、学生の身分とはいえ実際に企業の様子を自分の目で見ることができたのはとても貴重な経験だったと思います。

まず履歴書を作成して自分で応募し、面接に行くというのが難関でしたが、友人にアドバイスをもらってなんとかインターンシップ先を見つけることができました。そこは製造業の会社だったので、自分の業務とは別に、複数の工場を見学したり、展示会に出展する際に同行させてもらったりすることができました。また、インターンシップ先が地方の小さな町だったので、地方の生活スタイルも垣間見ることができました。

社会人になるのが少し遅くなるということがブレーキになる方もいらっしゃるかと思いますが、一度社会人になってしまうと、海外に行くこと、それも留学で長期滞在するということはやりたいくてもなかなかできません。海外に行って実際に生活をするので日本との比較対象ができるので、新たに「日本」を見直す機会にもなると思います。

おまけ Baby Sitter à la française

大学の語学講座に通っていた1年弱の間は Au pair をしていました。授業が終わったあとに子どもを迎えに行き、それから両親が帰ってくるまで一緒に遊んだり、宿題をやらせたりするのですが、子どもは外国人だからといってゆっくり話してくれません。彼らの会話スピードに最初はついていけませんでした。そのおかげでフランス語の聞き取りと会話のレベルが格段に上がりました。また、ホストファミリーをはじめ、彼らの家族、友人…と本当にいろいろな人達と会ったり、話したりする機会があったのでとても恵まれていたと思います。彼らとは今でも連絡をとっており、フランスに行く度に遊びに行っています。



sourire



on aime
la photo

